

内山模型製図社発行「昭和6年、10年刊」**復刻版**

東京地籍図

千代田区編

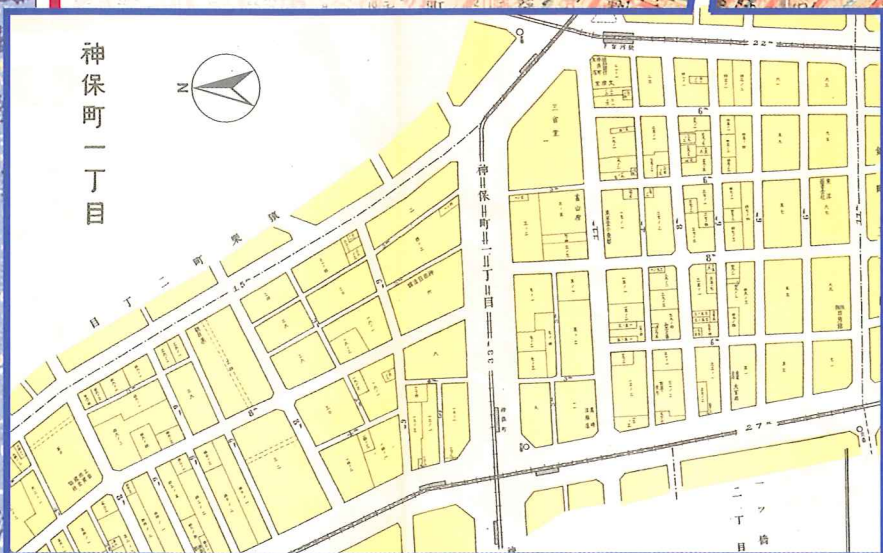
●第1回配本（2010年7月刊行）

全3巻+付録CD 1枚
本体揃価格=60,000円+税

不二出版

関東大震災からの復興期、
首都東京では区画整理が始まり町名地番が変更された。
当時の「地籍図」と「地籍台帳」と新たに作成した「主要データベース」が、
戦前期東京の景観復元を可能にし、社会・経済構造を解析する。
地理学・経済・経営史、都市工学研究必携の史料！

付録=地籍台帳データ
CD



地図は「最新大東京市全図」の一部です。

戦前期東京の土地所有状況を
悉皆的に網羅した貴重資料

本資料は昭和六年（一〇年）にかけて、内山模型製圖社出版部が刊行した『東京市各區地籍圖』及び『同地籍臺帳』を復刻したものである。関東大震災により大きな被害を受けた東京は、出版当時、下町を中心に震災復興区画整理事業が進められ、幹線道路が整備されるなど大なる復興を遂げつつあった。それは江戸以来、大規模な改変を受けてこなかった東京が、初めて経験したと言つてもよい大きな変貌であった。

同書はこの時代の東京の土地所有状況を悉皆的に網羅した貴重な資料であり、その大縮尺の地図は震災により破壊される前の首都東京の様子をありありと示してくれる。同書には当時の東京市全二五区と、豊多摩郡にあった渋谷区のデータがおさめられている。『同図』には索引図としての各区の全図と、二二〇分の一大縮尺の地図が、また『同台帳』には地番、地目、面積、地価、土地賃借価格、所有者住所、所有者氏名が掲載されている。副題に「区画整理町名地番変更後」と銘打たれていることから窺えるように、復興が進展し新たな都市空間が姿を現すなか、その形勢を直感的に理解できる本書が求められていたのである。

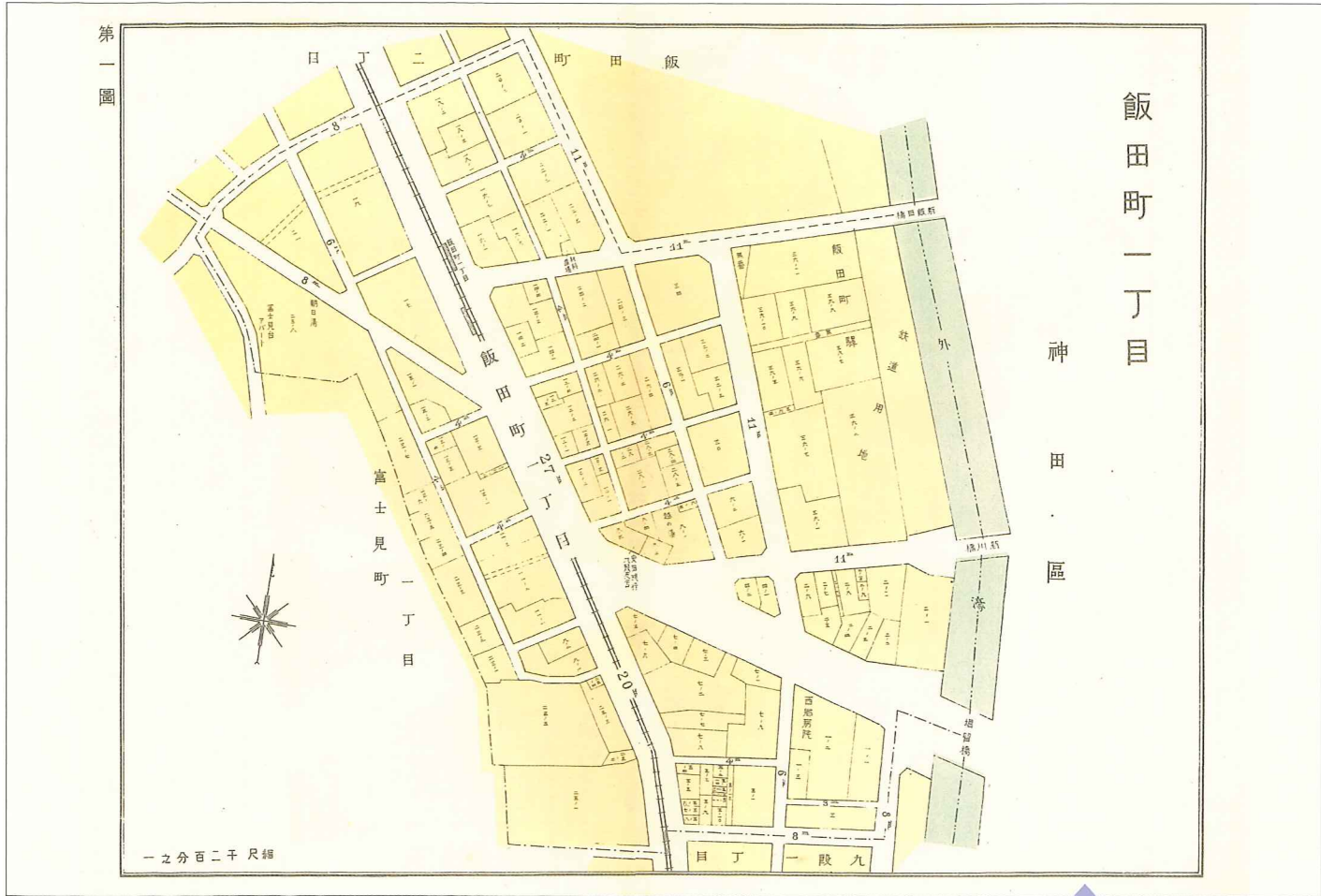
本資料に示されるような都市の地主は、華々しい都市改造の陰で、一見、都市の歴史の表舞台に出てくることは少ない。しかし、都市は地主に代表される様々な要素の集合体として存在するのであり、都市改造も決して一筋縄に達成されるものではない。こうした要素が個々の意思のもとで時に抵抗し、全体として慣性を働かせながら、徐々に変容を遂げてきた点に都市の歴史の面白さがあるのである。こうした観点からは例えば、本資料を用いて前後の時代と比較してみることも楽しい作業であろう。例えば、江戸の土地の七割は武家地が占めていたと言われるが、依然としてこの時代にも旧大名家が大地を所有していたことがわかる。一方、東京の土地は徐々に細分化が進んでいくが、こうした傾向も既にこの時代に認められる。ペンシルビルが立ち並ぶ現在の東京の都市空間は、こうした歴史的な土地所有状況に大きく規定されているのである。

今回の復刻版では、二六区の地籍図七二％に縮小し、地籍台帳を現在の区の区分に沿って、九回に分けて配本する。また、検索の便を図るため、「土地台帳」記載の約九四、〇〇〇件の主要な記録を電子データ化し、CDに収録して付録とした。これにより地名や地主を検索することはもちろん、手軽に集計を行うことができ、土地所有形態の分析などに活用することが可能である。本付録は、近代都市・東京を解析するうえでの膨大なデータベースと言つても過言ではない。東京に関する様々な研究の大きな進展を確信する次第である。

初田香成（東京大学大学院工学系研究科 特任助教）

復刻にあたって

「麹町区の地籍図」内容見本（縮小しています）



「麹町区の地籍台帳」内容見本（縮小しています）

東京市麹町區地籍圖目次									
地番	区名	町名	町番	地番	地目	面積	所有者住所	所有者氏名	備考
一〇一	麹町区	飯田町	一丁目	1-1	宅地	209.06	渋谷区	葛西虎次郎	
一〇二	麹町区	飯田町	一丁目	1-2	宅地	426.26	小石川区	西郷元儀	
一〇三	麹町区	飯田町	一丁目	1-3	宅地	76.09	芝区	大井光雄	
一〇四	麹町区	飯田町	一丁目	2-1	材料置場	372.30		東京市	
一〇五	麹町区	飯田町	一丁目	2-2	宅地	77.23	渋谷区	葛西虎次郎	
一〇六	麹町区	飯田町	一丁目	2-3	宅地	58.48	九段1	長島彦兵衛	
一〇七	麹町区	飯田町	一丁目	2-4	宅地	62.00	九段1	長島彦兵衛	
一〇八	麹町区	飯田町	一丁目	2-5	宅地	79.75	小石川区	高山憲三	
一〇九	麹町区	飯田町	一丁目	2-6	宅地	62.56	飯田町1	遠藤亮太郎	
一一〇	麹町区	飯田町	一丁目	2-7	宅地	59.22	九段1	内田友蔵	
一一一	麹町区	飯田町	一丁目	2-8	宅地	76.75	神田区	相馬清造	
一一二	麹町区	飯田町	一丁目	2-9	宅地	16.80	神田区	相馬清造	
一一三	麹町区	飯田町	一丁目	2-10	宅地	13.11	神田区	相馬清造	
一一四	麹町区	飯田町	一丁目	2-11	宅地	161.50	富士見町1	佐藤彌一	
一一五	麹町区	飯田町	一丁目	2-12	宅地	7.35	九段1	内田友蔵	
一一六	麹町区	飯田町	一丁目	3	宅地	170.37	芝区	大井光雄	
一一七	麹町区	飯田町	一丁目	4-1	宅地	44.69	神田区	村尾春吉 外一名	
一一八	麹町区	飯田町	一丁目	4-2	宅地	52.56	飯田町1	大澤政次郎	
一一九	麹町区	飯田町	一丁目	5-1	宅地	205.62	芝区	大井光雄	
一二〇	麹町区	飯田町	一丁目	5-2	宅地	15.50	飯田町1	持田金之助	
一二一	麹町区	飯田町	一丁目	5-3	宅地	34.00	飯田町1	荒野作次郎	
一二二	麹町区	飯田町	一丁目	5-4	宅地	20.76	日本橋区	渡邊達雄	
一二三	麹町区	飯田町	一丁目	5-5	宅地	42.30	丸ノ内1	株式会社千代田組	
一二四	麹町区	飯田町	一丁目	5-6	宅地	11.09	飯田町1	横山喜太郎	
一二五	麹町区	飯田町	一丁目	5-7	宅地	9.30	麻布区	長羽幸三郎	

「地籍台帳」データCDの内容見本●収録サンプルデータ(CSVテキスト形式)を表計算ソフトで開いたイメージ

地籍図番号	区名	町名	町番	地番	地目	面積	所有者住所	所有者氏名	備考
1	麹町区	飯田町	一丁目	1-1	宅地	209.06	渋谷区	葛西虎次郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	1-2	宅地	426.26	小石川区	西郷元儀	
1	麹町区	飯田町	一丁目	1-3	宅地	76.09	芝区	大井光雄	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-1	材料置場	372.30		東京市	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-2	宅地	77.23	渋谷区	葛西虎次郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-3	宅地	58.48	九段1	長島彦兵衛	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-4	宅地	62.00	九段1	長島彦兵衛	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-5	宅地	79.75	小石川区	高山憲三	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-6	宅地	62.56	飯田町1	遠藤亮太郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-7	宅地	59.22	九段1	内田友蔵	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-8	宅地	76.75	神田区	相馬清造	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-9	宅地	16.80	神田区	相馬清造	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-10	宅地	13.11	神田区	相馬清造	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-11	宅地	161.50	富士見町1	佐藤彌一	
1	麹町区	飯田町	一丁目	2-12	宅地	7.35	九段1	内田友蔵	
1	麹町区	飯田町	一丁目	3	宅地	170.37	芝区	大井光雄	
1	麹町区	飯田町	一丁目	4-1	宅地	44.69	神田区	村尾春吉 外一名	
1	麹町区	飯田町	一丁目	4-2	宅地	52.56	飯田町1	大澤政次郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-1	宅地	205.62	芝区	大井光雄	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-2	宅地	15.50	飯田町1	持田金之助	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-3	宅地	34.00	飯田町1	荒野作次郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-4	宅地	20.76	日本橋区	渡邊達雄	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-5	宅地	42.30	丸ノ内1	株式会社千代田組	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-6	宅地	11.09	飯田町1	横山喜太郎	
1	麹町区	飯田町	一丁目	5-7	宅地	9.30	麻布区	長羽幸三郎	

左の「地籍台帳」の主要情報を電子化。各種の調査、目的に応じた集計や並び替えが可能！

若手研究者による 精緻な東京の基礎資料

伊藤 毅 ● 東京大学大学院工学系研究科教授

待望の内山模型製図社発行の『東京地籍図』が関係者のご努力で復刻されることになった。一般に都市史の研究を進めるにあたって地籍図の果たす役割は絶大といつてよい。都市の全体的な形態はもとより、街区の空間環境、一片一片の土地の形状と所有者など、都市を物的に構成する基本的な情報が地籍図には豊富に含まれている。都市史分析の成否は良質な地籍図があるかどうかにかかっているといっても過言でない。

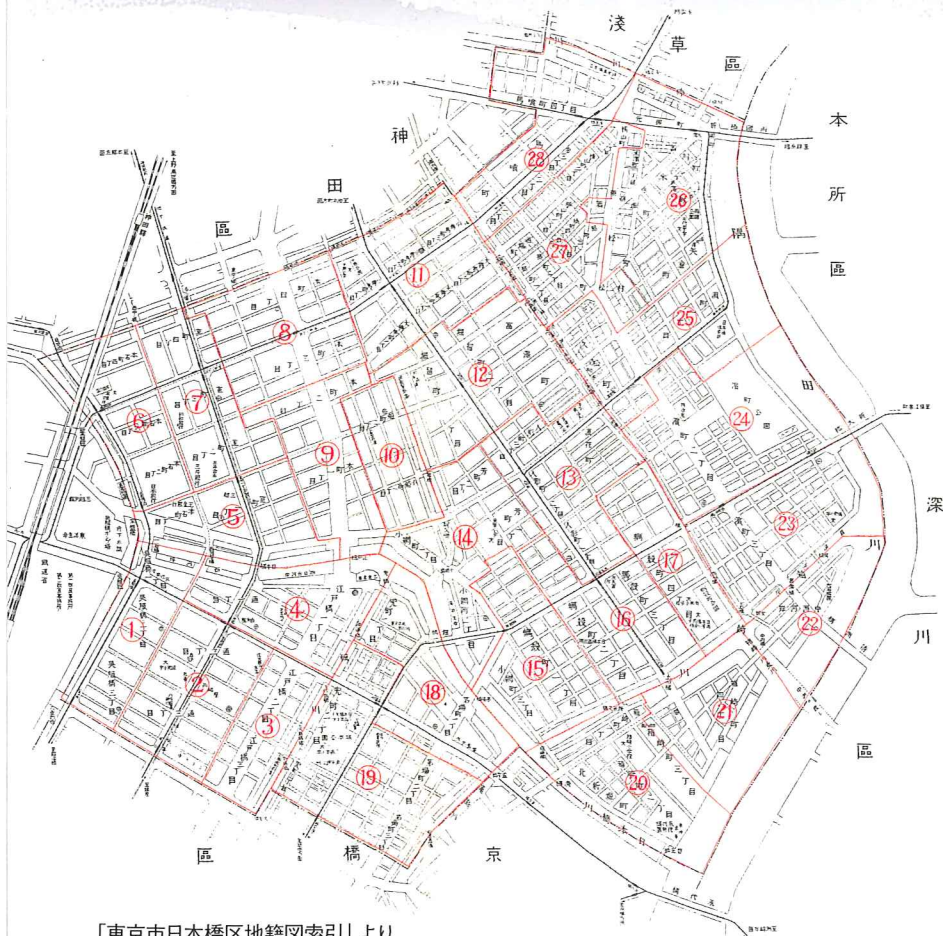
内山模型製図社とは大正初年に内山善三郎によって本格的に地図事業を開始した会社で、詳細な地図はもとより第二次世界大戦前の都市計画用の模型なども手がけた（清水靖夫「昭和20年代の地図事情と戦災復興院の東京1万分1地形図」）。同社のつくる地図や地籍図はその正確さ、詳細さにおいて定評があり、模型づくりに必要とされる高度な図面化技術が都市に向けられている。われわれはこの信頼すべき地図を使って関東大震災以降の東京（昭和六〜一〇年）の実像を明瞭に描き出せることになる。この復刻版にはいくつか重要な特徴がある。一つは若手の都市研究者が編集の中心として関与していること。このことは今後の研究の進展にもいい影響を与えることが期待できる。二つは取り扱いの便を考慮して地図のサイズが縮小されたことと、土地台帳データがCDで利用できることである。地図精度を保ちつつ本が軽量化されることは、日常的な研究や調べ事のなかで、抵抗感なくこの地図が利用できることを意味する。多くの読者が手軽にこの地図をまずは手にされることを期待したい。

帝都復興事業を細部から読み解く 必須のデータ

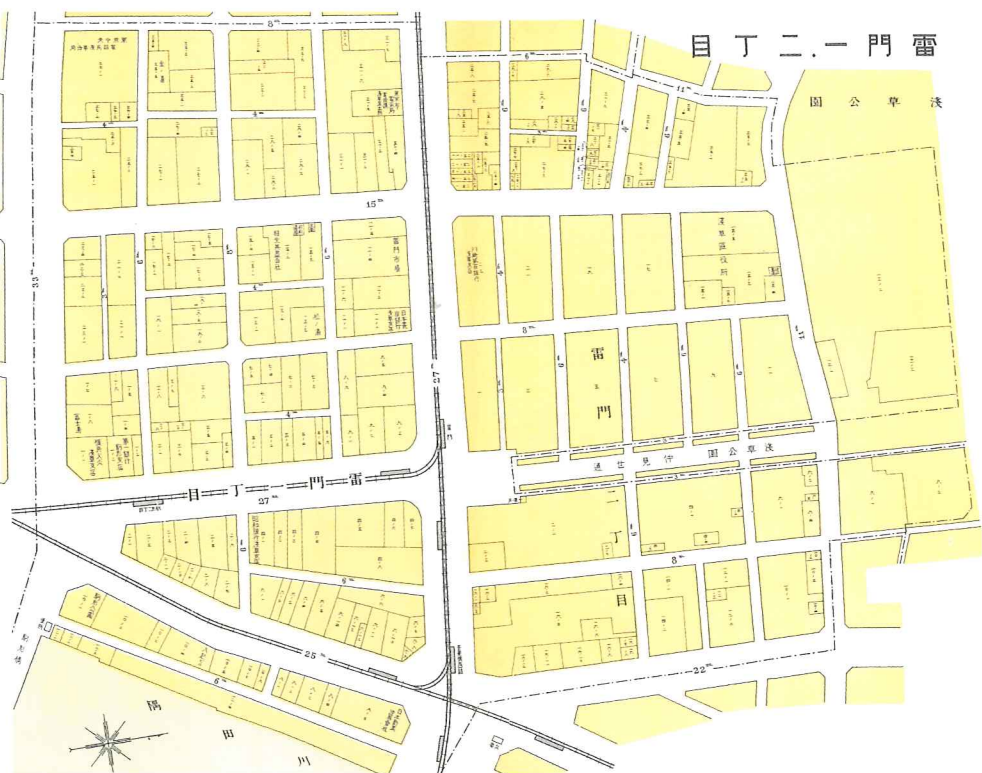
北原糸子 ● 立命館大学歴史防災都市研究センター教授

内山模型製図社『東京地籍図』戦前期各巻の刊行は昭和六年（一九三二）から昭和一〇年（一九三五）の五カ年の間に亘っている。この時期は関東大震災で焼ケ野原となつた東京が「帝都復興」事業で新たに生れ変わった直後にあたる。当然、区画整理の結果が反映されていることになる。

『帝都復興史』第二巻（復興調査会刊、一九三〇年五月）の各区の区画整理史に述べられている移転事業の推移と照らし合わせると、なかなか興味深い。もともと早く地籍図が発行された本所区は云わずと知れた被服廠の悲劇のあつた地区で、焼失区域、死傷者ともに、東京市中では最大の被害を蒙つた。当然、区画整理も難航したと推定されるが、工場や元大名屋敷の庭園跡などのある地域であり、江戸時代以来、土一升金一升といわれてきた「帝都」の中心街とはまた趣を異にしていた。むしろ、区画整理事業が難航したのは、少数の地主と多数の借地権者がそれぞれ利害を主張しあつた日本橋地区などの中心街であつたようだ。いずれにしても、法律の持つ強制力によって昭和四年にはほぼ家屋の移転、換地も完了したものの、移転命令に至るまでの間に多くの陳情書が出されているのはこうした地区であつた。『東京地籍図』に描かれている一片の宅地にもそれぞれ語りつくせないほどの物語があつたわけである。デジタルデータ化された『地籍台帳』は、こうした背景を探る手掛かりとしても有用になるだろう。



「東京市日本橋区地籍図索引」より



お化けの正体へのヒント

松山 巖 ● 作家

考えれば土地とは奇怪である。目に映るのは建物、庭、駐車場、空き地、あるいは土地の起伏。しかし見えない要素も多い。所有者、地価、法律が絡んでいる。地価の上下に人は一気一憂。人間の欲望や思惑も絡む。見えるかと思えば、そんな足元は見えにくい。まるでお化けである。

もう四十年前も前、私は東京芸大建築科の三年生だった。東京オリンピック後の街々の急変に反発して、私は仲間と大学に近い上野のアメ横を調査した。現在はコンクリートの建物になっているが、当時は、増築を重ねた大きなトタン屋根の下に狭い路地が縦横に走っていた。路地の中で店員さんたちにどやされながらも毎日、アメ横に通い、メモを採り、写真を撮り、幾つもの地図を作製した。商品の並べ方で地図に落とした。そこから闇市の匂いの残る、自然発生的な小さな街の形成を考えたが、中途半端な結果に終わった。いまなら地籍図を自分たちの作つた地図に重ねる。当たり前ながら街の形成と変化には土地所有が関係する。

今回復刻される『東京地籍図』でまずは我が地元を調べてみた。我が家は曾祖父から地元に四代住んでいるが、ずっと借地だったから我が家の名はない。納得したのは、昭和初期の地籍図でありながら、戦後、町内会長を務めた方たちの家の名を見つけたこと。土地所有は街の人々の付き合いにも関係があつた。見えなかった糸が一つ見えたと思った。お化けの正体を見て、都市を立体的に捉えるヒントなら、まずは地籍図からだ。

地理的想像力をかきたてる 都市史研究への期待

水内俊雄 ● 大阪市立大学・都市研究プラザ教授

地理学の伝統的な研究アプローチに土地利用図の変遷を明らかにするという関心が存在する。地理学者は少々きまじめにその変化を忠実に図化し叙述することが多かったが、都市史研究的に言い換えれば、都市の空間的な履歴や系譜をあきらかにする、ということになる。その空間的な履歴は、地名や土地区画、街路パターン、街路の広狭、水路、そして土地利用の中身にある。これらを詳細に明らかにしてくれるのは、地籍図と土地台帳である。とくに地名における小字名とその範囲がわかる格好の資料であり、わたしなどは、大阪の釜ヶ崎（今宮村の小字名）の空間的系譜を明らかにするのに、地籍図を大いに利用したし、地理的想像力もかきたててくれた。

今回、明治末期に加えて昭和初期の東京の地籍図が復刻されたこと、しかも土地台帳に記された文字データが電子データ化されたことは、とくに地主の整理や、区画や敷地の面積の集計ができることにつながり、大変ありがたい試みである。とくに敷地の面積に関しては、震災復興の区画整理における減歩や区画の取り方の特徴が実際に数値化されることは画期的ではなからうか。同時に区画整理をされていない地域の明治末期から昭和初期の敷地の変遷を克明に追うことを通じて、ミクロな都市史が可能になることも大いに期待できるのではないだろうか。

好評発売中!

[illegible]

京都地籍図編纂所発行「大正元年刊」

復刻版
全四卷
付録一
別冊一

地域区分	区	所在地(通称名)	元組	字	番地	種別	用途	上下	地価	坪別	床積	地価	所有主
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	1	1	71	宅地	124.65		65,340		
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	1	2	65	宅地	22.60		119,330		大塚マナ子
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	1	3	65	宅地	41.85		218,530		三井物産三三
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	2	0	71	宅地					
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	3	0	71	宅地					
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	4	0	71	宅地					
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	5	0	71	宅地					
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	6	0	71	宅地					
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	7	0	71	宅地	72.93		378,540		大塚雄一郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	8	0	71	宅地	10.00		52,950		大塚雄一郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	9	1	71	宅地	158.02		630,000	葛西町立倉村	西村祥平次
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	9	2	60	宅地	52.04		271,620		上三恵之助
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	10	0	71	宅地	39.40		205,740	大塚町	厚田昌三郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	11	0	71	宅地	51.94		271,650	葛西町立倉村	西村祥平次
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	12	0	71	宅地	47.08		245,700	大塚町	上川小太郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	13	0	71	宅地	73.36		352,660	杉木町	坪井マナ子
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	14	0	71	宅地	104.04		544,690	豊町四郎	松尾徳太郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	16	0	71	宅地	169.76		639,160		森田昌治
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	17	0	71	宅地	63.17		334,260	大塚町	小林マサ
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	18	0	71	宅地	69.07		352,660		大塚雄一郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	19	0	71	宅地	92.35		482,040	青原町	森正彦吉
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	20	0	71	宅地	57.42		299,700	五木町	小林マサ
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	21	0	71	宅地	40.05		209,520	五木町	森正彦吉
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	22	0	71	宅地	30.18		161,160	五木町	小林マサ
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	23	0	71	宅地	21.95		54,440		薄野三三郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	24	0	71	宅地	76.40		399,240	大塚町	厚田昌三郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	25	0	71	宅地	107.29		559,620		本庄茂吉
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	26	0	71	宅地	43.85		227,400	大塚町	厚田昌三郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	27	0	60	宅地	24.00		120,000		上川小太郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	28	0	71	宅地	63.00		325,440		上川小太郎
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	29	0	71	宅地	66.09		313,740	小中町	國本長直典
32	上野	大森通五辻上	元八組	芝大富町	30	0	71	宅地	79.45		414,760	中野町	中野野次郎

復刻版 東京百建築
全1巻
● 体裁Ⅱ B5横判・上製・総254頁
● 解説Ⅱ 石田潤一郎（京都工芸繊維大学大学院教授）
● 定価Ⅱ 本体価格 二、〇〇〇円十税

復刻版
東京百建築
全1巻

明治・大正・昭和
日本近代都市の
代表的「建築写真集」
三点のご案内

復刻版
建築の東京
全1巻

復刻版
近代建築面譜
近畿編 全1巻

- 体裁ⅡA4判・上製・箱入り・総672頁
- 監修Ⅱ橋爪紳也（大阪府立大学教授）
- 定価Ⅱ本体価格四八、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-8350-5757-6

カラー版地籍図が鮮明なる景観の復元を可能にする。
地籍台帳から土地利用実態が判明。
データベースが地名・地主等の検索と集計を容易にする。

This is a detailed historical map of Tokyo, Japan, titled "最新大東京全市圖" (Latest Great Tokyo City Map) and "明確" (Clear). The map shows the city's layout, including the Yamanote Line and other railway lines, and is surrounded by a grid of latitude and longitude coordinates.

『最新大東京市全図』(雄文館発行、昭和9年1月刊)より

内山模型製図社発行 [昭和6年・10年刊]

東京地籍図

復刻版

千代田区編

全3巻+付録CD1枚

●第1回配本「千代田区編」全巻構成

第1巻 千代田区地籍図(旧麹町区+旧神田区)を合本、4色カラー全72図

第2巻 麹町区地籍台帳 230頁

第3巻 神田区地籍台帳 304頁

付録 千代田区「地籍台帳」データCD1枚

●体裁

地籍図ⅡA3判(原本はA2判)

地籍地図ⅡB5判(原本に同じ)

●収録原資料名

『東京市麹町区地籍図』 昭和9年3月刊

『東京市神田区地籍図』 昭和10年1月刊

『東京市麹町区地籍台帳』 昭和9年3月刊—第2巻に収録

『東京市神田区地籍台帳』 昭和10年1月刊—第3巻に収録

●原資料発行所

内山模型製図社

●編集協力及び別冊解説者

中島直人(慶應義塾大学環境情報学部専任講師)

初田香成(東京大学大学院工学系研究科特任助教)

野村悦子(早稲田大学理工学術院総合研究所研究院客員准教授)

三倉葉子(東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程)

●揃定価

本体六〇、〇〇〇円+税(分売不可)

●推薦

伊藤 毅(東京大学大学院工学系研究科教授)

北原糸子(立命館大学歴史防災都市研究センター教授)

松山 巖(作家)

水内俊雄(大阪市立大学・都市研究プラザ教授)

『復刻版[昭和6年・10年刊]東京地籍図』の刊行予定

配本	収録区	旧・区名	収録内訳	本体価格・配本年月
第1回配本	千代田区編	麹町区・神田区	全3巻+付録1	60、000円・二〇一〇年七月 ISBN978-4-8350-6401-7
第2回配本	中央区編	日本橋区・京橋区	全3巻+付録1	60、000円・二〇一〇年九月 ISBN978-4-8350-6406-2
第3回配本	江東区編	深川区	全2巻+付録1	30、000円・二〇一〇年二月 ISBN978-4-8350-6411-6
第4回配本	新宿区編	四谷区・牛込区	全3巻+付録1	60、000円・二〇一一年五月 ISBN978-4-8350-6415-4
第5回配本	文京区編	小石川区・本郷区	全3巻+付録1	60、000円・二〇一一年八月 ISBN978-4-8350-6420-8
第6回配本	台東区編	下谷区・浅草区	全3巻+付録1	60、000円・二〇一一年一月 ISBN978-4-8350-6425-3
第7回配本	墨田区編	本所区	全2巻+付録1	30、000円・二〇一二年五月 ISBN978-4-8350-6430-7
第8回配本	港区編	芝区・麻布区・赤坂区	全4巻+付録1	90、000円・二〇一二年八月 ISBN978-4-8350-6434-5
第9回配本	渋谷区編	渋谷区(上・下)	全3巻+付録1	60、000円・二〇一二年一月 ISBN978-4-8350-6440-6

*別冊『復刻版「東京地籍図」解説』は第9回配本時に刊行(全巻購入者には無料)／別冊のみ分売可。本体価格1、000円+税 ISBN978-4-8350-6400-0

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替00160-2-94084